

公民館だより

ひがしの

No. 40 号

5 年 10 月 14 日

発行 東野公民館

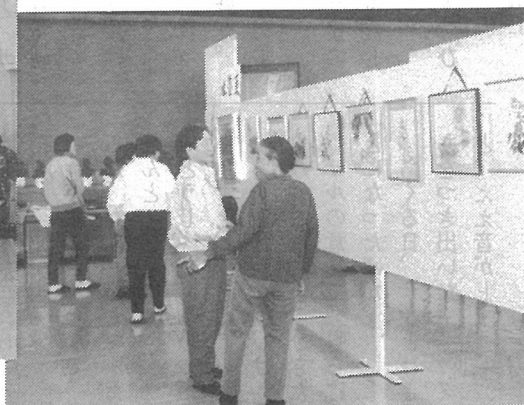


歌舞伎練習風景

ふるさと歌舞伎

11月3日正午開演

ところ 小学校体育館



文化祭風景

文化祭

11月2日 9時～5時

11月3日 9時～正午

ところ 東野公民館

三代目ふれあい

ふるさと文化祭

たのしいもよおし

展示がいっぱい

文化祭

今年は 四幕上演

こども歌舞伎も

あります

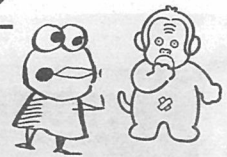
皆様、お誘い合わせて

お出かけください

ふるさとの

昔 話

「サルとヒキタ」



ひきた（ひきがえる）のどこへサルが遊びにきたげな。

「なにかおもしろいことをして遊ばまいか」と、サルがいうと、ひきたも「そりゃあ、ええ」といって相談が始まった。

「なにがええかいなあ」

「もちをついたらどうじゃ」という、ひきたのことばに

「うん、よし、よし、それがええ」と、サルも賛成したげな。そして、つぎの日、朝早くからもちをつくことに決まった。

つぎの日、まだ暗いうちから、サルはひきたのどこへ出かけていった。そうして、もち米をせいろでうむいて（蒸して）、ペタンコ、ペタンコともちをついたげな。夜が明ける前には、もう、ぎょうさんのもちつきがすんだ。

「このもちは、おてんとさま（太陽）がのぼるところを早う見たものが、食うことにしよまいか」と、サルがいうと

「うん、おもしろい。それがええ」と、ひきたも大賛成。

サルはこすい（ずるい）もんで、さっそく山へ登っていった。高い木のうえで、東のほうを見ながら、おてんとさまののぼるのを、いまか、いまかと待っておったげな。けれども、ひきたは高いところへは登れん。やっこさのことで、もちをついたウスのうえへ上がって、東の山のほうを見ておった。

おてんとさまがのぼり始めると、まず第一に西の山のてんこつ（てっぺん）が赤うなってきた。

「あつ、おてんとさまがのぼった」と、ひきたは大声で叫んで、うすからおりて、もちを食べ始めた。サルが山から、あわててとんでおりてきたときには、うすのなかのもちは、あらかた（ほとんど）のうなっておった。

サルはくやしゆうて、くやしゆうてたまらん。なんとかしかたきをうってやらんなんとな

「どうじゃ、もういっぺん、もちをつこまいか」と、ひきたにいうと

「ああ、けっこう、けっこう、なんべんでもけっこう」と、ひきたは賛成したげな。

サルの意見で、もちは山のうえでつくことになったげな。

あくる日、サルとひきたは、山の上でもちをつき出した。ペタンコ、ペタンコと、ええ音がして、じつにもちをつい

まった。そうすると、またサルが

「どうじゃ、こんどは、うすを山の上から落として、下へ早うおりたものがさきに食うことにしたら」といった。

「ああ、ああ、ええとも、ええとも」と、

ひきたは、またサルのいうことに賛成した。

「そんなら、落とすぞよ。一、二、三」と、サルはウスをころがいて、山のうえから落としてやった。

「こんどは、おれが食える」と、サルは腹のなかで、そう思いながら、もちのはいたウスをぼって（追って）、一生懸命に山をおりていった。やっこさのことで、谷間のところで、うすにぼい（追い）ついて、ウスのなかを見ると、なかはからっぽ。そうして、そのあとからひきたが、のっそ、のっそと、山からおりてきた。

「うすななかは、からっぽじゃ。途中で、もちが落ちとらんんだか」とサルが聞くと、ひきたは、いかにも満足そうに、腹をかかえながら

「うん、降りてくる途中で、木の株にひっかかったり、草のうえに落ちとったもんで、それを食いながら降りてきたら、おかげで腹がいっぱいになっちゃった。もう、どんなええごつおうがでも食う気はせんわ」といって、ふくれた腹をさすりながら、いかい（大きい）声で笑ったげな。

（恵那市史 はなしとうたより）



来賓の方からお祝いの言葉と
マンドリン演奏を披露してい
ただきました。



今年の対象者は139人で、参
加者72人でした。

敬 老 会

九月十五日、東野敬老会が開催されました。心からお祝い申し上げます。



アトラクションには、民踊・
東野音頭・阿波おどりが披露
されました。



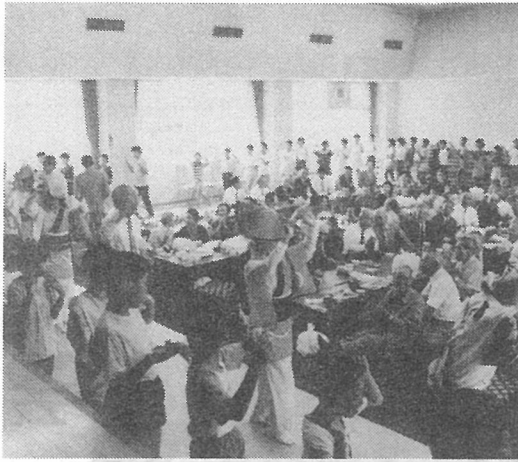
東釣会から鮎のプレゼントが
ありました。

阿波踊りを始めて

恵那市社会福祉協議会のメニュー事業の中に地域福祉活動推進事業があり、ボランティアグループの組織化・活性化があります。

去る二月、朝のテレビ番組の中で阿波踊りで「リハビリ」をしましょう。脳血管障害を持つお年寄りらで結成された踊りのグループ「寝たつきりになら連」でした。

この踊りならリズムもよく、テンポがよくて調子がいいので若い人も老いた人も充分踊れ、健康踊りとしてふれあいの場が出来ると思いました。又健康宣言都市恵那市にふさわしい踊りだと思いました。



六月の役員会で決まり事業の主旨ボランティア活動に、ご理解していただ

る五人のメンバーで六月の二十四日・二十五日の一泊二日で、本場徳島に行き阿波踊り指南、高橋先生のご指導を受けてまいりました。「やってみよう」と心が動けば体も動く、手を上げて足を運べば阿波踊りこれが基本です。

お気軽にご連絡下さい。御指導にお伺いいたします。

お問合せは（TEL）二六―二二四四

東野社会福祉協議会事務局まで

平成五年度 前期

ふるさと行事

六月一日～七日

さつき展

さつき盆栽愛好者の方々の協力により、おおよそ四〇鉢を展示しました。



（観賞して一言）

身近なところですきな花に出会えてよかったです。

西尾 芳



七月二十一日

家族映画会

伊勢湾台風物語を
上映しました。

(観賞して一言)

いせわん台風物語は、とても大きな台風が来た話でした。この話のよかったところは、たくさんの水で女の子が流されてしまったとき、女の子のかっていた、ブチという犬がせなかに乗せて助けてあげたところです。たくさんの人が死んでしまったりして、かわいそうな話だったけど、女の子のお父さんが流されている人を助けようとしていたり、やさしいなと思うところがたくさんあって、いいお話でした。

5年 土方美穂



七月十六日

救急人工呼吸法講習会

夏休みを間近にして水難事故になえ講習会を開催しました。

人工呼吸会参加して……

もし、あのようなことがおきた時、
うまく対処できるか心配です。

伊藤 宏



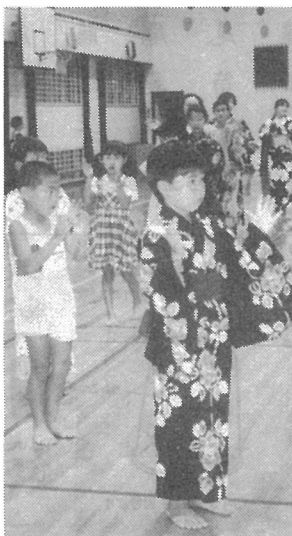
八月八日

地域清掃活動

早朝、こどもから高齢者の方まで
多数の方が参加しゴミ拾いを行いました。

(参加して一言)

ふだん、それほど気付かず通う道ですがよくさがしてみると、空缶の多さに驚きました。空缶を捨てないことに一人一人が心がけなければならないと思いました。 丸山美代子



八月七日

東野夏まつり

あいにくの天気でしたが会場を体育館にうつしてたのしく踊りができました。

(参加して一言)

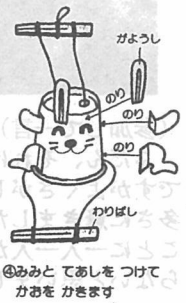
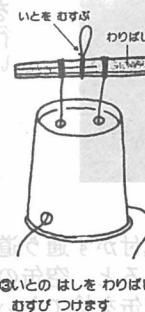
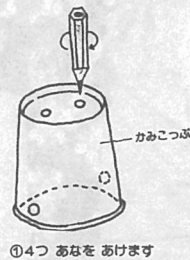
おどっているとき、はずかしかったけど、いっしょうけんめいにおどりました。しゃしんをいっぱいうつしてもらいました。 3年 西尾慶子

花無山俳句会

冷夏にて 庭藤またも 花支度
 柿茂り 栗また茂り 梅は老ゆ
 紫陽花の色つや増せり 日も雨
 わが踏みし 夏草ゆっくり 起きあがる
 庭つつじ こぼれる程に 咲き溢る
 夏祭 離れし一戸も 軒提灯
 農作業 水に親しむ 日焼けの手
 八十路越ゆ 母に雪溪 踏ませけり
 鳴き明かす 蟬その刻を 惜しむかな
 一つづつ 咲く朝顔に 今日雨
 純白の 大輪かける 花菖蒲
 一区切 つけて裏山 朴花見
 豆飯や 確かと旬を 味わへり

鈴木 抱風子
 伊藤 公道
 丸山 瑞月
 足立 いさむ
 市川 芳子
 伊藤 靖代
 伊藤 道子
 西尾 美恵子
 西尾 筍子
 加藤 裕子
 松本 はるか
 長谷川 弘子

きのほり うさぎ つくりかた ●よいするもの



ふるさと祭り

東野公民館 松本広英

昨年、高山を訪れた時にボランティアで観光ガイドをされている方の集り『飛騨高山ふるさとガイド事業団』の代表、種蔵泰一先生に高山の魅力を「天領時代よりの無形の遺産」と題して、文化や暮らしについての話をうかがいました。

高山は雪深い所で、雪が降ると朝早く起きて屋根の雪おろしをしなければなりません。六十才を過ぎた私には、もうすぐ九十才になる母がありますが、雪がふると「明日の朝は、早起きしないかんよ。」と言います。

自分の家の雪おろしがすむと、雪おろしのできない家にいって、みんなで協力して雪おろしをします。

また、雪の夜に病人がでた時には、近所の人たちがみんなで戸板にのせて病院まで走った事もありました。

こうして一生懸命に力を合わせてくらしを守ってきました。

高山には、日本三大美祭のひとつに数えられる高山祭があります。天領を背景にして発展した祭りですが、魅力は何よりも華かな屋台です。今年も、からくりのある布袋台や垂れ幕の美しい鳩峰車などの屋台11台の曳きそろえや宵まつりが開催されました。この華麗な祭り屋台は「屋台組」という地域単位で管理されています。

高山の人々のくらしの中から「屋台組」が生まれ、祭りをささえ、盛り上げそして地域のいっそう深い絆を育てました。

種蔵先生は講演の最後に「見覚えのある歴史的構造物や景勝史跡も多いが、高山の大きな魅力には、『素朴で暖かいくらしのたたずまい』がある。天領時代よりの無形の遺産です。」と語られました。

「生涯学習」といわれる今、それぞれが自分にあった方法で心にゆとりをもち生涯にわたっての生きがいを見つけることと、ふるさと祭のような子どもから高齢の方までみんなが一緒になってたのしみながら、郷土愛が育つようなことがあればよい事だと思います。

お知らせ

寄贈

武並町史 武並町史編纂委員会

武並町史は、十年の歳月をかけて、平成五年三月に発行されました。武並町の歴史がくわしく紹介されています。

句集 越冬鶉

鈴木 抱風子

平成五年四月、卒寿を記念して戦前、戦後につくられた句を集めて発行されました。



ふいる祭さとち図る書館

英山本財 館另公理東



ふいるさと図書館が始まって2ヶ月あまりがたちました。230冊くらい貸し出しがありましたが、利用者はほとんど子どもです。火曜日の夜は本を借りることができます。一般の方も是非ご利用下さい。

秋

松たけ

いねかり

赤とんぼ

..... そして読書

編集後記

今年の水稲作況指数は戦後最悪の凶作となりました。日照り不足、低温による冷害、相次ぐ台風の襲来、いもち病の発生と悪い事ばかりが重なったようです。米不足は深刻で米ドロボウまで出現しました。平成のききんと言えるかもしれません。

十月二日、雲一つない秋晴れのなか、小学校の稲刈りが行われました。こちらはまずまずの収穫があった様です。



寄韻

は 秋

左並田史 左並田史 員会